

寿都町「ゼロカーボンシティ」宣言

寿都町は北海道南西部、日本海に面し、全国でも有数の強風が吹く町で、特に局地的に吹く「だし風」は基幹産業である漁業を悩ませる町の大きな課題でありましたが、その課題を逆手にとり有効活用することを目的に、全国の自治体としては初めての取組となる風力発電施設を 1989 年に設置しました。

2003 年から売電収入をまちづくりに活用するための風力発電施設を導入し、現在では 12 基が稼働しており、住民との合意形成が図られた上で設備導入が行われていることから、風力発電施設に対して住民の理解度が高い状況にあり、稼働後 30 年以上の実績も相まって住民にとってなくてはならない身近なものとなっております。

こうしたグリーンエネルギーを活用したまちづくりを長年に亘り推進してきましたが、近年においては、地球温暖化が起因とされる気候変動の影響により、世界各地で記録的な猛暑や局地的な大雨、台風の巨大化など異常気象が多発しており、CO₂（二酸化炭素）を排出しない再生可能エネルギー活用の重要性が増しております。

地球温暖化対策が喫緊の課題とされる中、2015 年パリ協定において「産業革命前からの平均気温の上昇の幅を 1.5℃に抑えるよう努力する」との世界共通の目標が掲げられ、我が国でも 2020 年 10 月に「2050 年カーボンニュートラル」の実現を目指すことが宣言されました。

寿都町では再生可能エネルギーのポテンシャルを最大限生かし、地域振興やレジリエンス強化、地域内でのエネルギー循環のシステムの構築を目指す「CO₂ フリーの循環型地域社会づくりに向けたエネルギービジョン」を 2024 年 2 月に策定しました。

この将来ビジョンの中の一つである「CO₂ フリー=ゼロカーボン」の達成に向けた取組を推進してまいります。

脱炭素社会の実現に向け、安心・安全で持続可能な町として、また地球環境を将来世代へ引き継いでいくため、2050 年までに CO₂ 実質排出ゼロを「ゼロカーボンシティ」として目指すことをここに宣言します。

令和 7 年 6 月 5 日

寿都町長 片岡 春雄